

# The 7<sup>th</sup> International Conference on Coatings on Glass and Plastics 参加報告

旭硝子株式会社 板ガラスカンパニー 日本・アジア本部 製品技術部 評価グループ

佐藤 奈々

## Report on the 7<sup>th</sup> International Conference on Coatings on Glass and Plastics

**Nana Sato**

*Evaluation Group, Product Technology Division,*

*AGC Flat Glass Japan/Asia General div., Asahi Glass Co., Ltd*

2008年6月15日から19日まで、オランダ北ブラバント州のEindhovenにてThe 7th International Conference on Coatings on Glass and Plastics (ICCG 7)が開催された。EindhovenはAmsterdamから南へ電車で約1時間半のベネルクスの中央部に位置しており、Philipsの本社があるなど、オランダ南部を代表する工業都市である。ICCG 7の会場となったThe NH Conference Centre KoningshofはEindhovenの市街地からさらに10 kmほど離れた森の中のKoningshofホテルの会議場であり、ふと窓の外に野うさぎの姿を見つけることができるほどのどかな環境であった。

学会は参加者が400名弱であり、7つのセッションに分かれて口頭約50件とポスター約50件の計約100件の発表と、太陽電池に関するパネルディスカッションが行われた。特徴的であったのは、口頭発表の会場が一つだけであり、他の発表が同時並行で行われることが無く、全

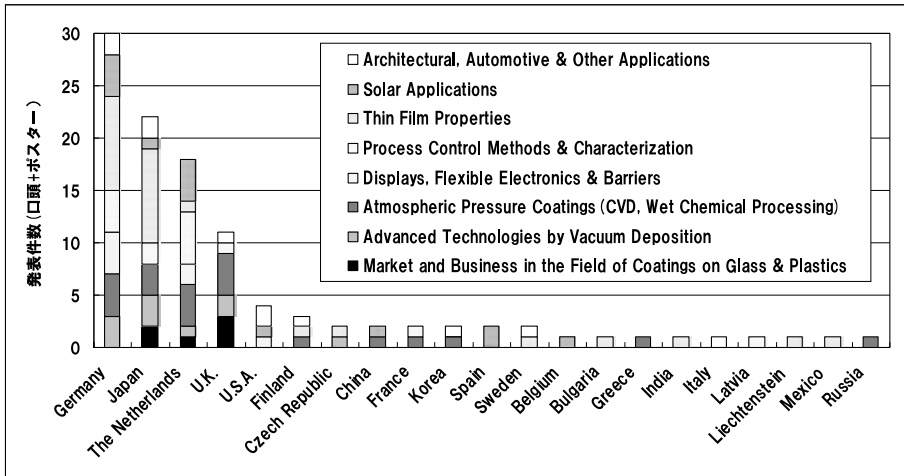
ての発表を聴講することができることであった。また、約2時間置きに30分間ものcoffee breakの時間が設けられていた。その30分間の間に参加者は企業が用意した展示を見て回ったり、参加者同士での情報交換を行ったりと発



発表会場



ディナーパーティが行われた  
Fata Morgana Castle in Efteling



国別の発表件数

表以外の情報を得ることができる。また、学会中は最終日を除いて毎晩夕食を含んだイベントも行われ、参加者同士が触れ合う機会が多く設けられており、単に情報を得るだけでなく、繋がりを作る生産的なコミュニケーションも重視された学会であったと感じた。事実、コーティングが専門ではない私にはなかなか接点のない、この学会の創設者である鈴木氏、著名な先生や他社の方々とお知り合いになれる機会が多々あったことに非常に感謝している。

発表された内容をまとめてみると、国別ではヨーロッパ諸国と日本の割合が高いことがわかる。やはり、ドイツを筆頭として太陽電池に関連するコーティング技術の発表が多くなされていた印象を受けた。ヨーロッパではエネルギー消費の約50%を建築分野で占めており、エネルギー削減の可能性が高いことから、この分野でのエネルギー削減の政策がとられているということであった。

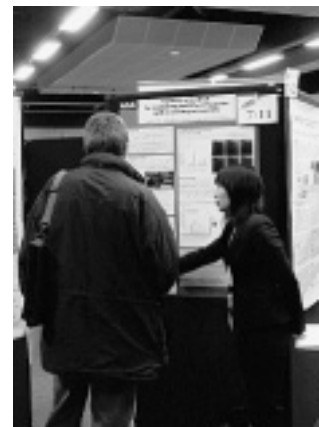
私は16日の夕方に1時間半用意されたポスタープレゼンテーションセッションの中で、セルフクリーニングガラスの新しい評価方法についての発表を行った。コーティング技術の学会の中で、私の発表は評価方法についてのみの内容だったので、あまり誰も興味を持ってくれないかと懸念していた。しかし、予想に反して絶

えず人がやってきて、質問や意見をくださるので、1時間半という時間があっという間に過ぎていた。

学会の最終日、全ての発表が午前中に終了した後、午後の半日を使ってのカンパニーツ

アーが用意されていた。見学できるのは地元の3社(TNO science & Industry, Holst Center, Scheuten)であり、私は1950年創業のガラスメーカーであるScheutenのVenlo工場を訪れ、ペアガラス、合わせガラス、Low-Eコーティングや強化ガラスの製造過程を見学させていただいた。詳細を見ることはもちろんできなかったが、日本で私が見慣れたものと比べると、とてもシンプルかつダイナミックであり、ゆとりを感じさせる製造ラインであったことがとても羨ましく印象に残った。

次回のICCG8は2009年にドイツで行われる予定である。



発表中の筆者